

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代

あいち朝日遺跡ミュージアム



観覧料

常設展も
観覧できます

区分	一般	大学生・高校生 (学生証のご提示が必要です)
個人	300円	200円
団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事(高校以下)及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方(1名まで)は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL/052-409-1467
- 開館時間/9:30~17:00
- 駐車場/15台
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



戦国時代

清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから
清洲城まで徒歩約10分



入館料

【大人】	300円
【小人】	150円
(小中学生) ※幼児無料	

- 愛知県清須市朝日城屋敷1-1
- TEL/052-409-7330
- 開館時間/9:00~16:30
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム
清洲城
2施設で計600円を
500円 発券より半年間有効



古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



展示室
入館料

【一般】	200円
※中学生以下無料	

- 名古屋守山区大字上志段味字前山1367
- TEL/052-739-0520
- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

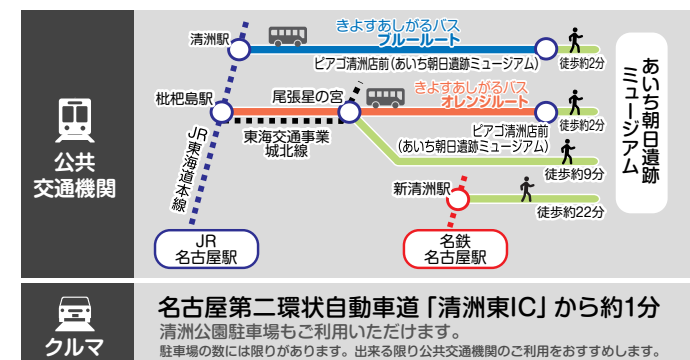
あいち朝日遺跡ミュージアム
体感!しだみ古墳群ミュージアム
2施設で計500円を
400円 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM
あいち朝日遺跡ミュージアム

■愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■TEL: 052-409-1467 ■駐車場 15台



あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡 だより

2023年3月

vol.8

振り返りレポート/企画展「あいちの発掘調査2022」

弥生ムラづくりプロジェクトレポート

シリーズ/ミュージアム収蔵品ファイル No.7

アカとクロがレポートするミュージアムの見所

連載/ミュージアムスタッフのこぼれ話

ショップグッズ紹介

古代体験プログラムのお知らせ

12月~2月のできごと

企画展「石の斧、鉄の斧」開催のお知らせ

あいち朝日遺跡ミュージアム



企画展写真

企画展 振り返りレポート

企画展

あいちの発掘調査2022

期間 2023年1月21日(土)～3月12日(日)
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでいます。今回の企画展は、朝日遺跡を始めとして、県内各地の発掘調査を実施し、大きな成果を挙げてきた、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターの協力により開催したもので、考古学の視点から、県内の地域と歴史を概観できるような内容となりました。

展示では、朝日遺跡(清須市)のほか、大崎遺跡(設楽町)、岡島遺跡(西尾市)、下田南遺跡(岩倉市)、石丸遺跡(大府市)など、県内各地の遺跡について、最新の調査成果を紹介するとともに、国指定史跡断夫山古墳(名古屋市熱田区)、同じく国指定史跡である馬越長火塚古墳群の出土品を公開することができました。

断夫山古墳出土の埴輪は、いずれも小片ではありますが、円筒埴輪だけでなく、家型埴輪と推定される破片もありました。とりわけ注目を集めたのは、国の重要文化財となっている馬越長火塚古墳出土品のうち、金

銅装の馬具類で、最奥の展示ケースを占めた鍍金の杏葉や辻金具は、新春早々の展示に相応しい「金ピカ」の輝きを放っていました。

関連事業としては、清須市教育委員会との共催で、春日公民館大ホールを会場に、「尾張と東三河の首長墓」をテーマとして、広瀬和雄氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)を招き、ミニシンポジウムを開催することができました。また、本館研修室では、「三河の遺跡」、「尾張の遺跡」と題し、各遺跡の調査担当者による成果報告会を催しました。

最後になりますが、この季刊誌がお手元に届く



企画展ポスター



馬越長火塚古墳(重要文化財、豊橋市教育委員会)

頃、春暖の日を待って、断夫山古墳を尋ねられてはいかがでしょうか。地下鉄名城線の西高蔵駅、あるいは熱田神宮西駅から、いずれも徒歩10分足らずの熱田神宮公園の中に、全長150m、前方部の高さ16m、神話では日本武尊の妃とされる宮簀媛を葬ったという伝承を持つ県内最大の前方後円墳の姿をみることができます。

(梅本 博志)



台付壺:岡島遺跡(西尾市教育委員会)

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで弥生体験を実践しています。



大人のための土器作り

●土器作り編 2022年 12月17日(土)



今年度の土器作りは、煮炊きをするための甕のみではなく、壺も製作してもらいました。作り方はこれまで同様、輪積み法です。ヒモ状に伸ばした粘土を輪にして積み重ねては、くっつけていきます。実際の弥生土器は

厚みが少なく、薄くて軽い作りですが、それを再現するのは一朝一夕ではできません。皆さん苦戦しつつも、土器を作られていました。



●土器焼き編 2023年 1月21日(土)

土器作り編で製作した土器は、その後ひと月ほど棚の上で乾燥させて、この日いよいよ焼き上げとなりました。前年度の土器焼きでは、完成したものの焼成温度が思いのほか上がらず、全体が黒く煤けた状態でしたが、今年はしっかりと温度を高めることができ、煤が取れて綺麗な赤褐色を見せてくれました。

土器炊飯 2023年 2月4日(土)



今年度の弥生ムラづくりプロジェクトの締めくくりとして、体験水田で栽培したお米を、土器で炊飯して試食しました。今回は「湯取り法」と呼ばれる、多めの水でお米を煮て、十分に火が通った段階で余分な水を取り上げるという方法で炊飯を実施しました。

もともと湯取り法は固めに仕上がる炊き方ですが、お米の浸水時間が少なかったこともあって、より固い仕上がりになりました。とはいえ、古代米本来の味を楽しめるとあって、参加者からは非常に好評で、おかわりされる方もいました。

鳥形土製品・鳥形木製品



写真1 鳥形土製品1

鳥は、弥生時代の人々にとって特別な生きものの一つでした。銅鐸に描かれることもあり、穀霊を運ぶ神の使いとして信仰されていたのではないかと説もあります。朝日遺跡の出土品のなかには、鳥を象ったとみられる遺物がいくつか見つかっています。

写真1は壺形土器の口縁部分が鳥に似せて作られたものです。壺の頸部から下は欠損しているため、全体の形はわかりませんが、鳥の首に当たる部分が口縁になっており、その反対側を尖らせて尾を表現しています。写真2も鳥に似せて作られた小型の容器で、尾から胴までが作られ、首の部分が容器の口縁になっています。これらの鳥形土製品は、弥生時代中期末から弥生時代後期にかけて作られたようです。

木で作られた鳥形もあります。写真3はいずれも鳥の頭から胴を表現したものです。羽にあたる別の部材と組み合わせて使われていたものと考えられます。鳥形木製品は住居や倉庫などに掲げるようにして飾られていたとみられています。あいち朝日遺跡ミュージアムでは、屋外の体験弥生ムラの入口に立つ木柱に鳥形木製品をあしらっていますので（写真4）、来館された際はぜひ探してください。

鳥を信仰の対象としたり、農耕儀礼に関連付けた習俗や考古資料は、東アジアの広い地域にみられます。朝日遺跡で出土しているこれらの鳥形土製品、鳥形木製品も、稲作とともに広がった農耕に関わる文化の一つとして考えることができます。

(原田 幹)



写真2 鳥形土製品2



写真3 鳥形木製品



写真4 復元された鳥形木製品(あいち朝日遺跡ミュージアム)

朝日遺跡マスコットキャラクター
「アカ」 「クロ」アカとクロがレポートする
ミュージアムの見所
(屋外編その7)学芸員に
聞こう!

Q1 あいち朝日遺跡ミュージアムのご近所で、「自分は子どもだった40年以上前から、よく遊びに行っていた。鬼ごっこやかくれんぼをしていた。」と教えてもらったことがあるよ。

この場所は1971年から国指定史跡「貝殻山貝塚」として保護されており、1975年には愛知県清洲貝殻山貝塚資料館が開館しました。そのお話をしてくださった方は、そんな昔からここに遊びにきてくださっていたんですね。



Q2 この屋外の様子は50年近くも変わらず守られているの？

いいえ、史跡に指定される前、ここは水田と畑でした。史跡公園として整備する際に木が植えられ、現在では大木になっています。

そして、2020年のミュージアム開館に合わせて、再整備をしています。新しいミュージアムと共存しつつ、より良い方法で大切な史跡を守り伝えていくためです。例えば、かつては駅で見かけるようなプラスチック製ベンチが置いてあったり、公園によくあるような公衆トイレが設置されていたのですが、これらは老朽化していたり、弥生時代に思いをはせる場にはふさわしくないなどの理由から撤去しています。

木の伐採も行われました。ミュージアムの開館前、ここには338本もの木が生えていたのですが、現在は合計84本です。どんな木がどこに生えているか、1本ずつ確認した上で残す木を選びました。



**Q3 そんなに木を切ってしまったの？
ちょっともったいないなあ。**

でも、木が多すぎると、地下の貴重な弥生時代の遺跡を木の根が破壊してしまう恐れがあります。適度な本数であれば、遺跡を覆う盛り土の維持のためにもよいのですが。

そこで、まず病気などになっていない健康な木を選びました。さらに、^{たてぎね} 堅杵に加工されたヤブツバキや、臼に使われたクスノキなど、弥生時代の人々が使っていた道具の材料になった木は優先的に残しました。そして、新しいミュージアムが史跡と違和感なく一体化した景観になるよう木の配置を考え、現在の姿になりました。

また、木を適度に間引き見通しを良くすることで、来館者の皆様の安全を確保する、という理由もあります。あまり木がうっそうとしていると、気付かないうちにスズメバチが巣を作ってしまうかもしれません。茂みの中にこっそりゴミを捨てられる、なんてことも許せませんよね。

博物館の役目は文化財を守り、皆様にその大切さを伝え続けることです。そのためには、いつでも皆様が気軽に心地よく訪れられる場所であることが重要なんです。原っぱのような屋外には、そんな思いが込められているんです。



ミュージアム開館前の様子



ミュージアム開館後(上の写真と同じ場所)



樹名札

今回も
朝日遺跡に詳しい
学芸員の方に
話を聞いたよ



田中 恵美 (あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)



当ミュージアムでは、「令和の弥生ムラ」を目指し、様々な参加体験型のイベントや普及活動を行っています。それらは、“おもてなしムラ人”と呼ばれるボランティアの方々と学芸員、スタッフが丸となって取り組んでいます。

おもてなしムラ人は、体験水田での田植えや収穫をはじめ、イベントの補助などをサポートする「体験ムラ人」、展示室やキッズ考古ラボでの案内や解説役として展示の観覧をサポートする「ガイドムラ人」の2つの役割があります。

ムラ人の皆さんは勉強熱心で、とても物知り！今日に至るまで多くの研修や寄合などを行っていますが、皆さん幅広い知識を持っていて、分からないことを聞くと丁寧に教えてくれます。

特に、ガイドムラ人の皆さんは来館者の方々を案内をするなかで色々な質問を受けます。「円窓付土器は何に使用していたのか」「なぜ朝日遺跡には木製品が残っているのか」という展示品についての質問はもちろん、「清洲城までの道順」や「どうしたら学芸員になれるのか」といった質問まで…。分からないことは学芸員に聞いたり、お客様と一緒に考えてみたりしています。

皆様も分からないことがあったり、“おもてなしムラ人”と書かれた赤と白のユニフォームを着たムラ人さんを見かけたら、ぜひお気軽にお声がけください。

(指定管理者 増田 知佳)



ガイドムラ人寄合の様子



ムラ人によるガイド案内



研修の様子

ショップグッズ紹介

【S字甕てぬぐい】

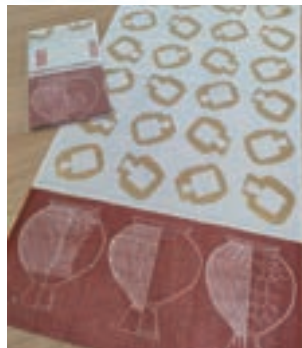
えすじょうこうえんだいつきがめ S字状口縁台付甕6種類の実測図と、一宮市にある西上免遺跡、清須市にある廻間遺跡の遺構図という、珍しい図柄が描かれた手ぬぐいです。

インテリアとして部屋に飾ったり、ハンカチ・タオルとして使ったり…。

色々な使い方ができる手ぬぐい。

来館の記念やお土産にいかがでしょうか？

S字甕てぬぐい ¥1500 (税込)



古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝 開催 会場：本館・体験学習室

※2023年4月1日(土)から6月25日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回)
※当日ミュージアム本館受付にてお申込みください。(事前予約はできません)
※イベント開催日は、通常と異なるメニューを実施する場合があります。

2023年 4月限定メニュー

おうちで焼ける！
土器づくり

■時間／15:00～(60分)

教材費
600円

各回先着
10人



作例

2023年 5月限定メニュー

ミニチュア石斧
ペンダント

■時間／15:00～(45分)

教材費
300円

各回先着
10人



作例

2023年 6月限定メニュー

土器文様タイルを
作ろう

■時間／15:00～(30分)

教材費
300円

各回先着
10人



作例

体験講座

「大人のための弥生土器づくり・土器焼き」

- 講師：原田幹（本ミュージアム学芸員）
- 日時：①土器を作る 2022年12月17日(土)午前10時から午後3時まで
②土器を焼く 2023年1月21日(土)午前10時から午後2時まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容：学芸員の指導のもとで、館にて調合した粘土を用いて弥生土器づくりを行いました。
成形した弥生土器は野焼きで焼成を行い、弥生土器がどのように作られたのかを体験しました。



「弥生マンガ教室」

- 講師：棚園正一（漫画家）
- 日時：2023年2月11日(土)午後1時30分から午後3時30分まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容：清須市出身の漫画家、棚園正一先生を講師に招き、弥生土器「台付壺」をテーマにマンガの制作を体験してもらいました。

ミニシンポジウム

「尾張と東三河の首長墓 ～断夫山古墳と馬越長火塚古墳群の 最新発掘調査成果から見えてくるもの～」

(清須市教育委員会共催事業)

- 講師：広瀬和雄（国立歴史民俗博物館名誉教授）
岩原剛（豊橋市文化財センター所長）
早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）
- 日時：2023年2月5日(日)午後1時から午後5時まで
- 場所：春日公民館 大ホール
- 内容：名古屋市の断夫山古墳と豊橋市の馬越長火塚古墳群（馬越長火塚古墳、口明塚南古墳、大塚南古墳）の最新の発掘調査成果を調査担当者が報告するとともに、尾張と東三河の古墳時代の「首長墓」のあり方から当地の古墳時代後期から終末期の社会像を探りました。

講座ヒストリーカフェ

「弥生時代、北陸と東海のイイ関係」

- 講師：原田幹（本ミュージアム学芸員）
- 日時：2022年12月3日(土)午後1時30分から午後2時30分まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容：八日市地方遺跡（石川県小松市）の出土品には、東海地方を代表する朝日遺跡と共通する要素、あるいはその影響を受けたものが見られます。日本海と太平洋、本州の南北に位置する両遺跡の関係を土器や石器など、出土品から探るとともに、企画展「北陸の弥生文化ー八日市地方遺跡と東海ー」のみどころを紹介しました。

成果報告会

「発掘調査最新成果報告会Ⅰ 三河の遺跡」

- 講師：社本有弥（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主事）
鈴木とよ江（西尾市教育委員会文化財課元学芸員）
- 日時：2023年1月22日(日)午後2時から午後4時まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容：縄文時代から弥生時代の集落跡と、鎌倉時代の水田遺構が出土した北設楽郡設楽町の大崎遺跡、西三河最大の弥生集落遺跡で、銅鐸形土製品などが出土した西尾市岡島遺跡の発掘調査成果を調査担当者が報告しました。

「発掘調査最新成果報告会Ⅱ 尾張の遺跡」

- 講師：平松久和（岩倉市教育こども未来部生涯学習課文化財指導員）
島軒満（株式会社アコード調査部調査技師）
- 日時：2023年2月26日(日)午後2時から午後4時まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容：大型倉庫群とともに、円面硯（円形の陶製硯）が出土し、古代の官衙（役所）跡とされる岩倉市下田南遺跡と、堀や大溝で区画された集落や寺院跡から、青磁碗や古瀬戸の天目茶碗など多くの中世陶磁器が出土した大府市石丸遺跡の発掘調査成果を調査担当者が報告しました。

講演会

「弥生土器からみたお米の炊き方」

- 講師：小林正史（北陸学院大学教授）
- 日時：2023年2月4日(土)午前10時から午後1時まで
- 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室、屋外・多目的広場
- 内容：現在、私たちが食べているお米は、世界各地と比較すると最も粘り気が強い品種で、箸を使って食べていますが、これはいつからでしょうか。遺跡から出土した弥生土器の形と使用痕（ス・コゲ）の分析、東南アジアの炊飯民族誌調査、復元土器による調理実験を組み合わせることで、お米の炊き方、食べ方の移りと米の品種の変化に迫りました。
ワークショップでは、復元した土器を使用して、実際にお米を炊きました。



企画展「石の斧、鉄の斧」 開催のお知らせ

会期：2023年4月29日(土・祝)～6月25日(日)

木の伐採・加工に用いられてきた斧。弥生時代は、石の斧が用いられてきましたが、徐々に鉄の斧へと変わっていった転換期でした。石斧から鉄斧への転換は人々の生活をどのように変えていったのでしょうか。今回の企画展では、本館及び愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）が所蔵する旧石器時代から古墳時代までの石斧・鉄斧に関する資料を展示し、先史時代の斧の役割、変遷について紹介します。

また、南山大学の調査団がバブアニューギニアで収集した民族資料の石斧の展示、復元品を用いた鹿角の加工実験の紹介など、学術的に貴重な資料も御覧いただくことができます。

企画展チラシ

